

## 耐震性能判定表

事業名					都道府県名	京都府	都道府県番号	26		
番号	設置者名	京都府		学校名	鴨沂高等学校					
建物区分	校舎・屋体・寄宿	階数	4	構造の種類	(R C)	S	S R C	その他 ( )		
耐震性能の診断の対象となった棟	棟番号	建築年		面積		左のうち今回診断対象分				
	①-1	S8年3月		8,132 m <sup>2</sup>		8,132 m <sup>2</sup>				
適用した方法	第2次診断		屋体診断基準		その他 ( )					
診断実施者名	㈱建築デザイン			左の持つ資格名	一級建築士	(登録番号)				
コンピューターソフトを使用した場合そのソフト名・作成者名					BUILD耐診 I & II	㈱構造ソフト (P評価12-RC)				
判定委員会の名称	京都府建築物耐震診断改修計画等判定委員会									
I s 又は q (CTUxSD) が不足の方向・階	けた行き			はり間	I s が最低の方向・階	方向	けた行			
	(B 1 階)	(1 階)	(2 階)	(3 階)	(B 1 階)	(1 階)	(2 階)	(3 階)	階数	1 階
I s, q (CTUxSD) 各指標の最低値			建物全体の補強・改修内容について							
耐震性能に係る各数値	既存建物	補強設計	補強前・補強後で左欄の数値が変更になった場合その補強・改修方法を○で囲み、( ) 内に箇所数を記入							
E 0	0.26	0.68	(R C 壁)	:	増設 ( 26 )	補強 ( )				
S D	0.57	0.72	R C 袖壁	:	増設 ( )	補強 ( )				
T	0.87	0.87	R C 柱	:	増設 ( )	補強 ( )				
Z	1.00	1.00	アレース	:	増設 ( 139 )	補強 ( )				
R t	1.00	1.00	耐震スリット	:	増設 ( )					
			基礎	:	増設 ( )	補強 ( )				
			荷重軽減	:	軽減箇所名 ( )					
			その他	:						
補強工事全体事業費	千円			内、耐震診断(補強設計含) 分			千円			
耐震性能の診断・補強設計を行った設置者の診断者の所見					診断を終了した日		平成17年1月13日			
既存建物の耐震性能の評価	けた行き方向で強度、韌性ともに不足しており全ての階において I s 値が不足している。張間方向では偏心率が大きいため、S D 値が低くなってしまっており、全ての階において I s 値が不足している。									
補強設計と補強後の耐震性能の評価	けた行き方向で主に教室窓側に補強鉄骨ブレースを増設し、強度増加型の補強を施した。張間方向では教室の界壁に鉄骨ブレース(開口が必要なところおよび地下階は R C 壁)を増設した。その結果、耐震性能が向上したが、けた行き方向では 1 階、2 階、3 階において、張間方向では全ての階において I s 値が不足しており、所要の耐震性能を満足していない。									

(注) 本判定表は、構造別に作成する。

建物の耐震改修の事業の内容

[柱、壁等の補強又は増設の概要] ※鉄骨補強プレースは接着工法とする。	
I棟	けた行き方向 I-1通 3階 H通～K通間 鉄骨補強プレース H-150×150 3ヶ所
	I-1通 2階 F通～H通間 鉄骨補強プレース H-175×175 2ヶ所
	I-1通 2階 H通～L通間 鉄骨補強プレース H-150×150 4ヶ所
	I-1通 1階 F通～H通間 鉄骨補強プレース H-175×175 2ヶ所
	I-1通 1階 H通～L通間 鉄骨補強プレース H-150×150 4ヶ所
	I-3通 2階 I通～J通間 鉄骨補強プレース H-175×175 1ヶ所
	I-3通 1階 I通～K通間 鉄骨補強プレース H-175×175 2ヶ所
	II-3通 1階 C通～E通間 鉄骨補強プレース H-200×200 1ヶ所
	I-1通 3階 C通～E通間 R.C耐震壁増設 2ヶ所
	I-1通 2階 C通～E通間 R.C耐震壁増設 2ヶ所
	I-1通 1階 C通～E通間 R.C耐震壁増設 2ヶ所
	張間方向 J通 2階 I-1通～I-3通間 鉄骨補強プレース H-175×175 1ヶ所
	J通 1階 I-1通～I-3通間 鉄骨補強プレース H-175×175 1ヶ所
	H通 2階 I-1通～I-3通間 鉄骨補強プレース H-200×200 1ヶ所
II棟	E通 2階 II-1通～II-3通間 鉄骨補強プレース H-150×150 2ヶ所
	E通 1階 II-1通～II-3通間 鉄骨補強プレース H-150×150 2ヶ所
	I-A通 1階 I-1通～I-3通間 鉄骨補強プレース H-200×200 2ヶ所
[柱、壁等の補強又は増設の概要] ※鉄骨補強プレースは接着工法とする。	
II棟	けた行き方向 II-E通 3階 3通～7通間 鉄骨補強プレース H-150×150 4ヶ所
	II-E通 2階 1通～8通間 鉄骨補強プレース H-150×150 7ヶ所
	II-E通 1階 1通～8通間 鉄骨補強プレース H-150×150 7ヶ所
	II-E通 2階 11通～21通間 鉄骨補強プレース H-150×150 10ヶ所
	II-E通 1階 10通～21通間 鉄骨補強プレース H-150×150 11ヶ所
	II-E通 3階 25通～28通間 鉄骨補強プレース H-150×150 3ヶ所
	II-E通 2階 23通～III-2通間 鉄骨補強プレース H-150×150 6ヶ所
	II-E通 1階 23通～III-2通間 鉄骨補強プレース H-150×150 6ヶ所
	II-A通 1階 18通～22通間 鉄骨補強プレース H-150×150 4ヶ所
	II-C通 1階 6通～8通間 鉄骨補強プレース H-150×150 2ヶ所
	II-C通 1階 22通～III-2通間 R.C耐震壁増設 7ヶ所
	II-A通 B1階 10通～14通間 R.C耐震壁増設 4ヶ所
	II-E通 B1階 11通～15通間 R.C耐震壁増設 4ヶ所
	張間方向 1通 3階 C通～E通間 R.C耐震壁増設 2ヶ所
III棟	1通 2階 C通～E通間 R.C耐震壁増設 2ヶ所
	1通 1階 C通～E通間 R.C耐震壁増設 2ヶ所
	7通 1階 C通～E通間 R.C耐震壁増設 1ヶ所
	25通 1階 C通～E通間 鉄骨補強プレース H-175×175 1ヶ所
	27通 1階 C通～E通間 鉄骨補強プレース H-175×175 1ヶ所
	3, 5, 15, 17通 1階 C通～E通間 鉄骨補強プレース H-200×200 1ヶ所
	10通 B1階 C通～E通間 R.C耐震壁増設 1ヶ所
[柱、壁等の補強又は増設の概要] ※鉄骨補強プレースはあと施工アンカー、スタッドボルトによる既存躯体との接合工法とする。	
III棟	けた行き方向 III-4通 3階 D通～J通間 鉄骨補強プレース H-150×150 6ヶ所
	III-4通 2階 B通～L通間 鉄骨補強プレース H-150×150 10ヶ所
	III-4通 1階 B通～L通間 鉄骨補強プレース H-150×150 10ヶ所
	III-4通 1階 N通～O通間 鉄骨補強プレース H-150×150 1ヶ所
	III-4通 1階 P通～S通間 鉄骨補強プレース H-150×150 3ヶ所
	III-2通 1階 P通～S通間 鉄骨補強プレース H-150×150 3ヶ所
	III-3通 1階 N通～O通間 鉄骨補強プレース H-150×150 1ヶ所
	D、F、H、J通 3階 3通～4通間 鉄骨補強プレース H-200×200 1ヶ所
	D、F、H、J通 2階 3通～4通間 鉄骨補強プレース H-200×200 1ヶ所
	D、F、H、J通 1階 3通～4通間 鉄骨補強プレース H-200×200 1ヶ所
	P通 3階 3通～4通間 R.C耐震壁増設 1ヶ所
	P通 2階 3通～4通間 R.C耐震壁増設 1ヶ所
	P通 1階 3通～4通間 R.C耐震壁増設 1ヶ所
	S通 3階 2通～4通間 鉄骨補強プレース H-175×175 1ヶ所
	S通 2階 2通～4通間 鉄骨補強プレース H-175×175 1ヶ所
	S通 1階 2通～4通間 鉄骨補強プレース H-175×175 1ヶ所

建物の耐震改修の事業の内容

[構造耐力上主要な部分の配置の状況]

けた行き方向北面（教室側）に鉄骨補強プレースを配置した。

張間方向では特別教室の界壁と両妻面に鉄骨プレースを配置した。開口が必要な場合はR C壁とする。

[構造耐力上主要な部分が韌性を持つための方法]

なし

[構造耐力上主要な部分の接合部に係る措置]

なし

[構造耐力上主要な部分の錆止め若しくは防腐のための措置又は白蟻その他の虫による害を防ぐための措置]

なし

[基礎の状況]

現況の通り

[屋根ふき材、内装材料、外装材その他これらに類する建築物の部分若しくは広告塔、装飾塔その他建築物の屋外に取り付けられるもの（以下「屋根ふき材等」という。）、屋上から突出する水槽煙突その他これらに類するもの、給水、排水その他の配管設備又は冷却塔設備の構造耐力上主要な部分若しくは支持構造部との緊結方法又は支持構造部の構造耐力上主要な部分との緊結方法]

なし

[エレベーターの補強方法]

なし

[その他]

なし

## 耐震性能判定表

事業名				都道府県名	京都府	都道府県番号	26
番号		設置者名	京都府	学校名	鴨沂高等学校		
建物区分	(校舎)・屋体・寄宿	階数	2	構造の種類	R C	S	S R C その他 ( )
耐震性能の診断の対象となった棟	棟番号 (2)	建築年 S13年3月		面積 633 m <sup>2</sup>	左のうち今回診断対象分 633 m <sup>2</sup>		
適用した方法	第2次診断		屋体診断基準	その他 ( )			
診断実施者名	株建築デザイン		左の持つ資格名	一級建築士	(登録 号) 耐震診断講習会 受講番号		
コンピューターソフトを使用した場合そのソフト名・作成者名				B U I L D 耐診 I & II 株構造ソフト			
判定委員会の名称	京都府建築物耐震診断改修計画等判定委員会						
I s 又は q (CTUxSD) が不足の方向・階	けた行き (1階) 2階 3階	はり間 (1階) 2階 3階		I s が最低の方向・階 (1階) 2階 3階	方向	はり間 階数 1階	
I s, q (CTUxSD) 各指標の最低値				建物全体の補強・改修内容について			
耐震性能に係る各数値	既存建物	補強設計	補強前・補強後で左欄の数値が変更になった場合その補強・改修方法を○で囲み、( ) 内に箇所数を記入				
E 0	0.705	0.931	R C 壁	: 増設 ( )	補強 ( )		
S D	0.666	0.842	R C 軸壁	: 増設 ( )	補強 ( )		
T	0.903	0.903	R C 柱	: 増設 ( )	補強 ( )		
Z	1.000	1.000	プレース	: 増設 ( 1 )	補強 ( )		
R t	1.000	1.000	耐震スリット	: 増設 ( )			
I s	0.491	0.817	基礎	: 増設 ( )	補強 ( )		
C T U x S D	0.245	0.518	荷重軽減	: 軽減箇所名 ( )			
補強工事全体事業費		千円	内、耐震診断(補強設計含) 分			千円	
耐震性能の診断・補強設計を行った設置者の診断者の所見				診断を終了した日		平成17年1月13日	
既存建物の耐震性能の評価	けた行き方向で強度、韌性ともに不足しており1階においてI s 値が不足している。 はり間方向では偏心率が大きいため、SD指標によりI s 値が低減されており、 1階においてI s 値が不足している。						
補強設計と補強後の耐震性能の評価	けた行き方向で補強鉄骨プレースを増設し、強度増加型の補強を施した。 はり間方向では、開口を閉塞することで、偏心を解消し、強度も確保した。 その結果I s 値の目標値を確保することができた。						

(注) 本判定表は、構造別に作成する。

## 建物の耐震改修の事業の内容

### [柱、壁等の補強又は増設の概要]

けた行き方向 C通 1階 5通～6通間 鉄骨補強プレース H-175×175 1ヶ所  
張間方向 7通 1階 A通～B通間 開口閉塞 1ヶ所  
7通 1階 C通～D通間 開口閉塞 1ヶ所

### [構造耐力上主要な部分の配置の状況]

けた行き方向では書庫のコンクリートブロック壁を撤去して、鉄骨プレースを配置した。  
張間方向では偏心率を解消するように7通の開口を閉塞して耐震壁とし、耐力を確保した。

### [構造耐力上主要な部分が韌性を持つための方法]

なし

### [構造耐力上主要な部分の接合部に係る措置]

なし

### [構造耐力上主要な部分の錆止め若しくは防腐のための措置又は白蟻その他の虫による害を防ぐための措置]

なし

### [基礎の状況]

現況の通り

[屋根ふき材、内装材料、外装材その他これらに類する建築物の部分若しくは広告塔、装飾塔その他建築物の屋外に取り付けられるもの（以下「屋根ふき材等」という。）、屋上から突出する水槽煙突その他これらに類するもの、給水、排水その他の配管設備又は冷却塔設備の構造耐力上主要な部分若しくは支持構造部との緊結方法又は支持構造部の構造耐力上主要な部分との緊結方法]

### [エレベーターの補強方法]

なし

### [その他]

なし

## 耐震性能判定表

事業名					都道府県名	京都府	都道府県番号	26
番号		設置者名	京都府		学校名	鴨沂高等学校		
建物区分		校舎	屋体・寄宿	階数 1	構造の種類	(R C) (S)	S R C	その他 ( )
耐震性能の診断の対象となった棟		棟番号 ③	建築年 S43年9月		面積 1109 m <sup>2</sup>		左のうち今回診断対象分 1109 m <sup>2</sup>	
適用した方法		第2次診断		屋体診断基準	その他 ( )			
診断実施者名		㈱建築デザイン		左の持つ資格名	一級建築士	(登録番号) 耐震診断講習会 受講番号		
コンピューターソフトを使用した場合そのソフト名・作成者名					Super Build/R C診断2001			
判定委員会の名称		京都府建築物耐震診断改修計画等判定委員会						
I s 又は q (CTUxSD) が不足の方向・階		けた行き		はり間	I s が最低の方向・階		方向	はり間
		1階 2階		(1階) 2階			階数	1階
I s, q (CTUxSD) 各指標の最低値		建物全体の補強・改修内容について						
耐震性能に係る各数値		既存建物	補強設計	補強前・補強後で左欄の数値が変更になった場合その補強・改修方法を○で囲み、( ) 内に箇所数を記入				
E O		0.63	0.85	R C壁	: 増設 ( )	補強 ( )		
F e s		1.00	1.00	R C袖壁	: 増設 ( )	補強 ( )		
T		0.96	0.96	R C柱	: 増設 ( )	補強 ( 12 )		
Z		1.00	1.00	プレース	: 増設 ( )	補強 ( )		
R t		1.00	1.00	耐震スリット	: 増設 ( )			
I s		0.60	0.81	基礎	: 増設 ( )	補強 ( 12 )		
q (CTU×SD)		0.95 (0.29)	1.53 (0.46)	荷重軽減	: 軽減箇所名 ( )			
補強工事全体事業費		千円		内、耐震診断(補強設計含) 分			千円	
耐震性能の診断・補強設計を行った設置者の診断者の所見					診断を終了した日		平成17年1月13日	
既存建物の耐震性能の評価		屋根架構の水平力の伝達能力がないものと仮定し、ゾーニングにより耐震診断を行った結果、けた行き方向架構では目標とする耐震性能を満たしている。張間方向では、両妻架構は目標とする耐震性能を満たしているが、独立柱として検討した柱の I s 値が低くなってしまっており、補強を必要とする結果となった。						
補強設計と補強後の耐震性能の評価		独立柱の断面を大きくし耐力を向上し、基礎を大きくし、基礎の終局耐力を向上した結果、I s 値が上昇し、目標値を確保することができた。						

(注) 本判定表は、構造別に作成する。

## 建物の耐震改修の事業の内容

### [柱、壁等の補強又は増設の概要]

独立柱の耐力を確保するために増し打ち補強する  
基礎形状も大きくして耐力を向上させる  
亀裂老朽化が確認された箇所にはエポキシ樹脂注入による補強を施すものとする

### [構造耐力上主要な部分の配置の状況]

### [構造耐力上主要な部分が韌性を持つための方法]

### [構造耐力上主要な部分の接合部に係る措置]

### [構造耐力上主要な部分の錆止め若しくは防腐のための措置又は白蟻その他の虫による害を防ぐための措置]

### [基礎の状況]

### [屋根ふき材、内装材料、外装材その他これらに類する建築物の部分若しくは広告塔、装飾塔その他の建築物の屋外に取り付けられるもの（以下「屋根ふき材等」という。）、屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するもの、給水、排水その他の配管設備又は冷却塔設備の構造耐力上主要な部分若しくは支持構造部との緊結方法又は支持構造部の構造耐力上主要な部分との緊結方法]

### [エレベーターの補強方法]

### [その他]

## 耐震性能判定表

事業名					都道府県名	京都府	都道府県番号	26
番号		設置者名	京都府		学校名	鴨沂高等学校		
建物区分		校舎	屋体・寄宿	階数	2	構造の種類	(R C)	S S R C その他 ( )
耐震性能の診断の対象となった棟		棟番号		建築年		面積	左のうち今回診断対象分	
		(14)		S8年3月		707 m <sup>2</sup>	707 m <sup>2</sup>	
適用した方法		第2次診断			(屋体診断基準)	その他 ( )		
診断実施者名		株建築デザイン			左の持つ資格名	一級建築士 (登録号)		
					耐震診断講習会	受講番号		
コンピューターソフトを使用した場合そのソフト名・作成者名					SuperBuild/RC耐震2001 株ユニオンシステム			
判定委員会の名称		京都府建築物耐震診断改修計画等判定委員会						
I s 又は q (CTUxSD) が不足の方向・階		けた行き		はり間		I s が最低の方向・階	方向	はり間
		1階 2階		1階 (2階)			階数	2階
I s, q (CTUxSD) 各指標の最低値				建物全体の補強・改修内容について				
耐震性能に係る各数値	既存建物	補強設計	補強前・補強後で左欄の数値が変更になった場合その補強・改修方法を○で囲み、( ) 内に箇所数を記入					
E 0	0.363	1.019	R C 壁 : 増設 ( ) 補強 ( ) R C 袖壁 : 増設 ( ) 補強 ( ) R C 柱 : 増設 ( ) 補強 ( ) ブレース : 増設 ( ) 補強 ( ) 耐震スリット : 増設 ( ) 基礎 : 増設 ( ) 補強 ( ) 荷重軽減 : 軽減箇所名 ( ) その他 : ブラケット新設 ( 16 ) 鉄骨屋根架構新設 ( 8 )					
T	0.940	0.940						
Z	1.000	1.000						
R t	1.000	1.000						
I s	0.341	0.958						
q	0.550	2.960						
補強工事全体事業費		千円	内、耐震診断(補強設計含) 分			千円		
耐震性能の診断・補強設計を行った設置者の診断者の所見					診断を終了した日		平成17年1月13日	
既存建物の耐震性能の評価	けた行き方向では I s 値の目標値を確保している。 はり間方向では 2 ~ 7 通フレームで I s 値が不足している。							
補強設計と補強後の耐震性能の評価	けた行き方向で屋根架構を剛床仮定が成立するように補強し、周囲のコンクリート躯体に地震力が伝達できるものとし、I s 値の目標値を確保することができた。							

(注) 本判定表は、構造別に作成する。

建物の耐震改修の事業の内容

[柱、壁等の補強又は増設の概要]

屋根鉄骨架構フレーム撤去後新設（8フレーム）

[構造耐力上主要な部分の配置の状況]

同上

[構造耐力上主要な部分が韌性を持つための方法]

なし

[構造耐力上主要な部分の接合部に係る措置]

屋根鉄骨架構受けブラケットの新設（16箇所）

[構造耐力上主要な部分の錆止め若しくは防腐のための措置又は白蟻その他の虫による害を防ぐための措置]

なし

[基礎の状況]

現況の通り

[屋根ふき材、内装材料、外装材その他これらに類する建築物の部分若しくは広告塔、装飾塔その他建築物の屋外に取り付けられるもの（以下「屋根ふき材等」という。）、屋上から突出する水槽煙突その他これらに類するもの、給水、排水その他の配管設備又は冷却塔設備の構造耐力上主要な部分若しくは支持構造部との緊結方法又は支持構造部の構造耐力上主要な部分との緊結方法]

[エレベーターの補強方法]

なし

[その他]

なし

## 耐震性能判定表

事業名					都道府県名	京都府	都道府県番号	26
番号		設置者名	京都府		学校名	鴨沂高等学校		
建物区分	校舎	屋体・寄宿	階数	2	構造の種類	R C	S	S R C その他 ( )
耐震性能の診断の対象となった棟	棟番号		建築年		面積		左のうち今回診断対象分	
	(15)		S8年3月		663 m <sup>2</sup>		663 m <sup>2</sup>	
適用した方法	第2次診断			屋体診断基準	その他 ( )			
診断実施者名	株建築デザイン			左の持つ資格名	一級建築士	(登録 号)	耐震診断講習会 受講番号	
コンピューターソフトを使用した場合そのソフト名・作成者名					SuperBuild/RC耐震2001 株ユニオンシステム			
判定委員会の名称		京都府建築物耐震診断改修計画等判定委員会						
I s 又は q (CTUxSD) が不足の方向・階	けた行き			はり間		I s が最低の方向・階	方向	はり間
	1階 2階			1階	2階		階数	1階
I s, q (CTUxSD) 各指標の最低値			建物全体の補強・改修内容について					
耐震性能に係る各数値	既存建物	補強設計	補強前・補強後で左欄の数値が変更になった場合その補強・改修方法を○で囲み、( ) 内に箇所数を記入					
E 0	0.747	0.997	R C 壁	: 増設 ( ) 補強 ( )				
F e s	1.000	1.000	R C 軸壁	: 増設 ( ) 補強 ( )				
T	0.904	0.904	R C 柱	: 増設 ( ) 補強 ( 9 )				
Z	1.000	1.000	プレース	: 増設 ( ) 補強 ( )				
R t	1.000	1.000	耐震スリット	: 増設 ( )				
I s	0.452	0.953	基礎	: 増設 ( ) 補強 ( )				
q	1.610	1.610	荷重軽減	: 軽減箇所名 ( )				
補強工事全体事業費		千円	内、耐震診断(補強設計含) 分			千円		
耐震性能の診断・補強設計を行った設置者の診断者の所見						診断を終了した日	平成17年1月13日	
既存建物の耐震性能の評価	けた行き方向では、1階～2階全階で I s 値の目標値を確保している。 はり間方向では1階で強度が不足し、I s 値が不足している。							
補強設計と補強後の耐震性能の評価	はり間方向では1階柱を増打ち補強することで、耐力を確保し、I s 値の目標値を確保することができた。							

(注) 本判定表は、構造別に作成する。

## 建物の耐震改修の事業の内容

[柱、壁等の補強又は増設の概要]

A通 1階 2通～10通 柱増打補強 ( $t = 450$ ) 9箇所

[構造耐力上主要な部分の配置の状況]

同上

[構造耐力上主要な部分が韌性を持つための方法]

なし

[構造耐力上主要な部分の接合部に係る措置]

なし

[構造耐力上主要な部分の錆止め若しくは防腐のための措置又は白蟻その他の虫による害を防ぐための措置]

なし

[基礎の状況]

現況の通り

[屋根ふき材、内装材料、外装材その他これらに類する建築物の部分若しくは広告塔、装飾塔その他建築物の屋外に取り付けられるもの（以下「屋根ふき材等」という。）、屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するもの、給水、排水その他の配管設備又は冷却塔設備の構造耐力上主要な部分若しくは支持構造部との緊結方法又は支持構造部の構造耐力上主要な部分との緊結方法]

[エレベーターの補強方法]

なし

[その他]

なし